

推敲あれこれ

田中愛子×高野公彦

.....

⑭



◆四・四のリズムを避ける

水仙の白花しろばなそよがすきさらぎの風は冷たしもうすぐ立春
(原作)

すいせんすいせんの白花ゆらす朝風は冷たけれども立春まぢか
(改作)

「亡き母が」に注意

高野 こんにちは。歌の推敲の仕方について、今月お話を伺うのは田中愛子さんです。どうぞ宜しくお願いします。いつものように推敲例を用意してもらいました。「もしこれが自分の作品だったら、こう直したい」という具体的な例です。

亡き母が縫ひし色無地いろむぢ道行きが納戸に眠る仕付けのままに
(原作)
ありし日の母が縫ひたる色無地いろむぢが仕付け糸付くままに残れり
(改作)

田中 これはまず「亡き母が縫ひし」が変なので、直しました。

高野 亡き母が着物を縫うことはできま

せんよねえ(笑)。

田中 はい。そこを「ありし日の母が縫ひたる」と直して、さらに「眠る」も通俗的な言い方なので、「残れり」にしました。

高野 いいですね。辞書を見ると「色無地」は黒以外の一色の和服、また「道行き」は和服用の外套だそうです。なぜ「道行き」を消したんですか？

田中 「仕付けのままに眠る」では大ざっぱなので、「仕付け糸付くままに残れり」としたい。そうすると字数が増えるので「道行き」を省略しました。

高野 なるほど。納得です。

田中 「納戸」は不要ではないんですが、字数の関係でやむなく削りました。

高野 でも、衣類をしまつてある場所は大抵納戸ですから、分かりますね。

田中 二句目は「しろばな・そよがす」で、四・四のリズムです。結句も同じです。四・四のリズムは、高野さん嫌いでしょう？

高野 ええ。ウクライナに侵攻したプーチンと同じくらい嫌いです(笑)。

田中 それに立春が近いのですから「きさらぎ」は不要なので削りました。

高野 適切な直しですね。「水仙」を平仮名に変えたのは？

田中 短歌は、なるべく平仮名で表記したほうが韻律を味わいやすいので。

高野 同感です。それと、単なる「風」を「朝風」として時間を表わしたのが、歌をリアルにして効果的ですね。

紅葉もみぢして山の湯宿に友と来て過ぎ来し
語れば夜が更けゆく
(原作)

紅葉こうやの山の湯宿に級友と往時語り夜
の更けるまで
(改作)

田中 この歌は、一つの出来事を時間の
順に述べていて、散文的です。

高野 原作は湯宿に来る前から詠み起こ
していますが、改作は湯宿に来たあとか
ら詠み起こしている。内容を絞ったのが
いいですね。

田中 また、原作の下旬は平板なので、
改作では倒置法にしました。

高野 うまい。「ごぶとん3枚!」(笑)。

◆二文を解消する

去年より更にわが背は曲がりたり
「年」とひとこと医師は言ふなり

去年より曲がるわが背を年齢のゆゑと
老いたる医師は言ふなり
(原作)
(改作)

田中 この歌は三句で切れて、また結句
で切れている。つまり二つの「文」を並
べた歌です。それでは単調なので、三句
で切らずに上下を繋ぎました。

高野 うまい直し方です。歌を作る時、

三句でいったん切って、一息ついて下旬
を付けるのは、初心者が多いですね。

田中 原作の医師は年齢不明ですが、私
は仮に高齢の医師にしてみました。

高野 こう直すと、高齢者同士の心の交
流が歌の中に生まれますね。

田中 ここを「青年の医師」にすると、
ちよつと冷たい歌になります(笑)。

◆語尾の「に」が三個所もある

夕焼けに染まる川面かほにそれぞれの水脈み
くきやかに鴨かもら遊べり
夕焼けの映る川面かほにそれぞれの水脈み混
じり合ひ鴨かもら遊べり
(原作)
(改作)

高野 ここからは私の用意した推敲例で
す。この歌は初句、二句、四句の最後が
どれも「に」となっているのがマイナス
なので直しました。

田中 三つあった「に」が一つだけにな
りましたね。ほかに「染まる」を「映
る」に直したのがいいですね。

高野 川面は、決して染まりませんから
ね(笑)。あれは夕焼けが映っているん
です。「染まる」というのは通俗的です。

田中 また「水脈くきやかに」を「水脈
混じり合ひ」としたのも、歌をリアルに
していますね。

◆「指折り」という決まり文句

年取れば脳なうきの力衰へて指折り詠みし歌
を忘るる
年取れば脳なうきの力衰へて昨夜よべ詠みし歌今
朝は忘るる
(原作)
(改作)

高野 歌や俳句を作る時よく「指折り数
えて作る」と言いますが、これは決まり
文句ですね。「指折り」は要らない。

田中 小学生なら「指折り」でいいでし
ようが、お年寄りの作者が「指折り」と
いうのはちよつと……。

高野 僕は最初「指折り」を見て、指を
骨折したのかと思いました(笑)。
田中 改作には、「昨夜」と「今朝」が
入って、歌意が明確になりましたね。

高野 まさか小学生の時に作った歌を、
八十歳になって思い出せない、という意
味ではないでしょうからね(笑)。今日
はどうもありがとうございます。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)